

シンポジウムの開会にあたって

国立公文書館 菊池 光興



シンポジウムの主催者を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

私は、このアジア歴史資料センター、アジ歴を所管する独立行政法人国立公文書館の館長を務めております菊池光興でございます。よろしくお願い申し上げます。

本日は、内閣府ほか政府関係機関の皆様、アジア歴史資料センターの開設や運営に当たりご尽力をいただいております関係学会、関連機関、またメディアなど、各方面の皆様方のご臨席を得まして、さらに、平素からアジア歴史資料センターのデータベースをご利用いただいております皆様にも多数ご参加いただきまして、このシンポジウムを開催する運びとなりました。心からお礼を申し上げます。

アジア歴史資料センターは、2001年、平成13年の11月30日、国立公文書館の下に設置され運用が開始されて以来、満5周年を迎えることができました。この間、世界最大級のアジア歴史資料のデジタル・データベースを構築し、ウェブサイト上で公開してまいりました。また、先般10月にはセンターの情報提供システムを更新し、従来にも増した最新技術による新しい検索機能などを加えまして、ウェブサイトを利用いただいている方々にとっての利便性を大きく向上することができました。

ところで、このセンター開設時を振り返りますと、当時、センターの設置場所や形態についてさまざまなご議論がございました。センターの引受け先として白羽の矢が立った当国立公文書館といたしましても、あるいは内閣府といたしましても、アジア歴史資料という、政治的にも外交的にも、あるいは、社会的にもさまざまな議論を招来しかねない性格の文書・資料を提供するアジ歴を所管の下に置くということについて若干の躊躇があったことも否めなかったわけであります。しかし、このような懸念は全くの杞憂に終わりましたことを、責任者として皆様方にご報告をいたします。

逆にポジティブな側面としては、国立公文書館とアジア歴史資料センターとが一体となって運営されることによって、さまざまな効果が生じております。具体的に申しますと、国立公文書館は、後発として所蔵資料のデジタル・アーカイブを構築したわけでございますけれども、先行のデータベースとしてのアジ歴の経験が大きく役立ち、高精画像の提供面などで一層の改善を図ることができました。

アジア歴史資料センターの方からいいますと、私ども国立公文書館が参加しております国際公文書館会議（ICA）の国際会議の場等におきまして、例えば2004年のウィー

ンの世界大会や東アジア地区の EASTICA 会合等の場で、アジ歴のデモンストレーションや説明を行う機会を確保することができました。今までもウィーン、北京、ワシントン、カナダのオタワ、オランダなど各国の国立公文書館、あるいは、インドネシア、韓国の関係団体や大学等、さまざまな場所と機会において公文書館の枠組みの中でアジ歴の披露をして、その評価を高めることに大きく役立ったと思います。このような意味で、アジア歴史資料センターと国立公文書館がともに活動を続けていくということは、双方にとって大変有意義な形で今日まで至っております。

本日のシンポジウムでは、このような経過も踏まえつつ、アジア歴史資料センターの5年間を皆様とともにレビューするほか、ウェブサイト上の特別展で取り上げてまいりました、歴史テーマの一つでございます「先の開戦に至る日米交渉事例」として、歴史資料が現代にとって持つ意味を考えて、デジタル・アーカイブの役割と将来像を探りたいと考えております。

本日は、日本学士院会員の細谷千博先生に「検証：日米交渉」、また、アジ歴のセンター長をお願いしております石井米雄先生に「アジ歴5年のレビューと新しい展開」と題して、基調講演を賜ることにしております。お二人とも、申し上げるまでもなくそれぞれのテーマについての第一人者であられ、アジ歴に関してはその設立に至るまで構想の段階から深くかかわって来られました。

基調講演の後は、アジ歴の新システムのデモンストレーションをご紹介いたしたいと存じます。後半には、早稲田大学の平野健一郎先生はじめ、いずれもセンターの運営などについて平素からご指導いただいております3人の先生方に加わっていただき、パネルディスカッションを行います。

さらに、本日ご出席の参加者の皆様方との間で活発な質疑応答を行っていただき、国の枠を越えて、世界に開かれたデジタル・アーカイブとしてのアジ歴の今後の活動へのご提言を得られれば、主催者としても幸いに存ずる次第でございます。ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせいただければと存じます。

あわせて、これからも利用者の皆様方により一層のご活用をお願い申し上げる次第であります。アジ歴センターのデータベースも、また国立公文書館のデジタル・アーカイブも皆様にお使いいただき、また、的確なご指摘やご指導、ご要望を頂戴しながら、システムや画像の改良、あるいは、向上を図ってまいり、成長していくものでございます。今後より多くの方々により幅広いご意見を賜りますよう、この機会をお借りしましてお願い申し上げて、私の開会のご挨拶といたします。

本日は、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。